

ふれあい報告書[®] 2007

ワタミグループ CSR報告書



CSRテーマ

ありがとうの総和



地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI[®]

ふれあい報告書2007「ワタミグループCSR報告書」発行にあたり

はじめに

「ふれあい報告書」というタイトルは、私たちの活動の根幹である経営理念からネーミングされました。私たちは、人として、社会の一員としての責任を果たし、事業活動を営む一方で、できる限りの社会貢献（還元）に取り組んでいくことが大切だと考え、「できることからコツコツと一歩ずつ」を基本に創業時より努力してまいりました。

2001年より、この考え方に基づく行動を「ふれあい活動」と名づけ、グループのテーマに「環境貢献、社会貢献、人間貢献」を掲げ、今まで以上に明確に決意（意思）を表明し、毎年、環境および社会貢献に関する報告書として「ふれあい報告書」を発行してきました。

2006年からは、「環境」「社会貢献（地域・社会）」のみならず、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」などステークホルダー（利害関係者）の皆様との関わりについても記載し、CSR報告書として発行しています。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができましたら幸いです。

編集方針

本報告書は、ワタミグループの活動や取り組みを分かりやすくご紹介させていただくことを目的に、ステークホルダーの皆様ごとに掲載しています。

- 本報告書では、
- 1、各ステークホルダーにどのようにご意見・ご要望を伺い、企業活動に活かしているか
 - 2、活動に対する姿勢、昨年度の課題に対する実績と評価、今後の目標
- を積極的に記載しました。

また、ステークホルダー別の扉ページでは、活動に対する総括として、主要なパフォーマンスデータを掲載しています。

さらに、本報告書では要点を絞り込んだ報告とし、掲載できなかった情報は、具体的な事例や詳細データなどを「ワタミふれあいホームページ」に掲載し、網羅的な情報の開示に努めています。
※「ワタミふれあいホームページ」に掲載されている情報につきましては、それぞれの記載項目の下段に「WEB掲載」と明記しています。

「ふれあい報告書2007」WEBサイトのご案内

本冊子に掲載されている全内容とデータ集は、「ワタミふれあいホームページ」でご覧になれます。



ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

発行日 2007年9月(次回発行:2008年9月、前回発行:2006年9月)

お問い合わせ先

ワタミ株式会社(社長室)
東京都大田区羽田一丁目1番3号(〒144-0043)
TEL (03) 5737-2784 FAX (03) 5737-2793
ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

対象範囲

ワタミ株式会社および国内連結子会社12社を基本に、一部の報告では海外を含むワタミグループ全体、あるいはグループ会社の個々の活動についても紹介しています。

本報告書では、

- 1、「ワタミグループの概要」では海外を含むワタミグループ全体について紹介しています。
- 2、「世界に広がる“ありがとう”の輪」では和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、三商和民股份有限公司の海外3社の活動について紹介しています。
- 3、「環境とともに」ではワタミ(株)、およびワタミフードサービス(株)、ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)、(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの国内外食企業3社、ワタミエコロジー(株)の5社を対象としています。

対象期間

2006年度(2006年4月1日~2007年3月31日)の活動を中心に、一部最新(2007年度)の情報をご紹介しています。
※ワタミの介護(株)については、2月決算のため、2006年度(2006年3月1日~2007年2月28日)の情報としています。
※和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、三商和民股份有限公司の3社については、12月決算のため、2006年度(2006年1月1日~12月31日)の情報としています。

社名表記について

本報告書ではグループ会社の社名を略称で記載しています。

- 1、基本となる国内連結子会社12社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記していますが、「環境とともに」では、ワタミ(株)およびワタミフードサービス(株)、ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)、(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの国内外食企業3社、ワタミエコロジー(株)の5社を「ワタミグループ」、または「ワタミ」と表記しています。対象が異なる場合は、該当する会社を記載しています。
- 2、「ワタミフードサービス(株)」を「WFS」、「ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)」を「WDFS」、「(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン」を「T.G.I.F.J」と表記しています。
- 3、(株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、(有)当麻グリーンライフに関する記載を「ワタミファーム」と表記しています。
- 4、ワタミの介護(株)を「ワタミの介護」、ワタミエコロジー(株)を「ワタミエコロジー」と表記しています。
- 5、和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司を「和民中国」、三商和民股份有限公司を「三商和民」と表記しています。

<将来の予測・目標について>

本報告書には、ワタミグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の予測・目標なども記載しました。しかしながら、これらの予測・目標は、記述した時点で入手可能な情報ないし判断であり、リスクや不確定な要因を含んでいます。

したがって、将来に生じる様々な要因により活動結果が、本報告書に記載した予測・目標と異なる可能性があります。読者の皆様には、以上のことをご理解いただけますようお願いいたします。

<参考にしたガイドライン>

- グローバル・リポーティング・イニシアティブ(GRI)
- 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」
- 環境省「環境報告書ガイドライン2007年度版」

目次

「ふれあい報告書2007」発行にあたり	P 2
ワタミグループの概要	P 4
トップメッセージ	P 6
ワタミグループに共通する経営の考え方	P 7
ワタミのCSRの考え方	P 8
ワタミのCSRの基盤	
コーポレートガバナンスの強化	P 10
コンプライアンス活動の推進	P 12
リスクの発生予防とリスク発生時の体制づくり	P 13
お客さまとともに	P 14
安全・安心の追求	P 16
外食事業	P 18
特集 世界に広がる“ありがとう”の輪~ワタミの外食(海外)	P 20
介護事業	P 22
特集 ワタミ手づくり厨房 ワタミの「こだわりの手づくりシステム」	P 24
農業	P 25
環境事業・教育事業	P 26
株主様とともに	P 27
株主様の満足を目指して	P 28
開かれた総会を目指して	P 30
お取引業者様とともに	P 31
お取引業者様との共存共栄を目指して	P 32
従業員とともに	P 35
夢を追いかけるグループであるために	P 36
グループ企業の教育・研修	P 38
安全で、安心して働ける職場を目指して	P 39
地域・社会とともに	P 41
社会貢献活動	P 42
特集 スクール・エイド・ジャパン	P 46
環境とともに	P 47
ワタミグループの環境への取り組み	P 48
グループ全体の環境影響の把握	P 50
店舗における主な環境影響	P 51
店舗での取り組み	P 52
環境コミュニケーション(社内・社外)	P 54
ワタミグループの環境会計	P 56
特集 特定非営利活動法人「Return to Forest Life」について	P 57
CSR年表	P 58
2006年度アンケート結果	P 59
2007年度アンケート	P 60
GRI対照表	P 61
第三者所感・編集後記	P 63

ワタミグループの概要

■会社概要 (2007年3月末現在)

社名：ワタミ株式会社
 本社所在地：東京都大田区羽田一丁目1番地3号 (〒144-0043)
 創業：昭和59年4月
 設立：昭和61年5月
 売上高：98,411,344千円(連結)
 資本金：4,338,342千円
 従業員数：グループ計3,152名 (2007年4月1日現在)

ワタミグループは、外食・介護・農業・環境・教育の分野で事業を展開しています。ワタミの最大の財産である「人」が差別化要因になる事業で積極的に展開しています。

	事業別売上高(百万円)	事業別経常利益(百万円)
外食(国内)	85,819	3,045
外食(海外)	4,019	128
介護	6,791	977
農業	2,249	▲163
環境	4,472	250
その他	222	23

※連結調整前の数値 ※介護事業はのれん償却調整後の数値

■外食事業

飲食店の経営およびフランチャイズ加盟店の店舗管理
 グループ直営店およびフランチャイズ加盟店の酒・飲料の納入

2006年度は、北海道・四国地方などの新商勢圏へ積極的に出店し、2007年3月時点で1都1道2府33県に展開しています。また「坐・和民」「わたみん家」などへ業態転換を計62店舗行いました。海外では、香港、中国本土(深圳)のほか台湾、グアムに展開しています。

■国内の外食業態紹介

居食屋「和民」
 「時間、空間を楽しむ」新しいタイプの居酒屋として開発。「豊かで楽しいもうひとつの家庭の食卓」を基本コンセプトに展開しています。

語らい処「坐・和民」
 居食屋市場の変化に合わせ、内装により個室感を持たせた「静かに語り合う空間」を提供しています。

居食屋「和み亭」
 ランチ&ディナー営業を行う居食屋「和み亭」。ファミリーコミュニティレストランとして多様なニーズに対応しています。

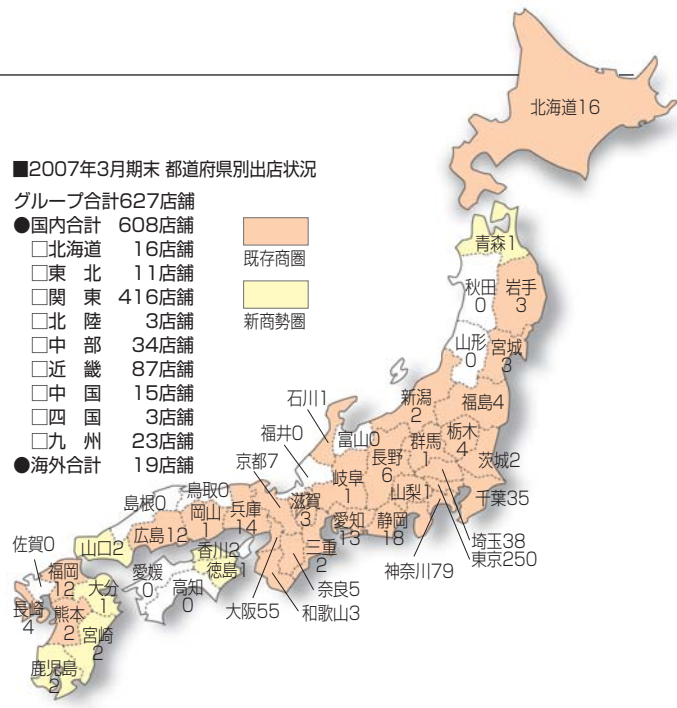
海鮮処「和民市場」
 新鮮な魚介料理を楽しみたい、という特定動機に対応した居食屋業態として展開しています。

焼肉居食屋「炭団」
 「炭火・肉・タレ」にこだわり、お得な価格に、居心地良さを添え、焼肉居食屋として展開しています。

ごはん酒房「然の家」
 自然をキーワードに据え、より多様なご利用動機にお応えできる、新しい和の居食屋空間です。

japanese dining「ゴハン」
 「古きよき日本の食卓」が基本コンセプト。不思議な雑踏感があり、懐かしさと新鮮さを感じるモダンな居食屋です。

DINING & BAR「Japago」
 レストランとしてもバーとしてもご利用いただける業態。

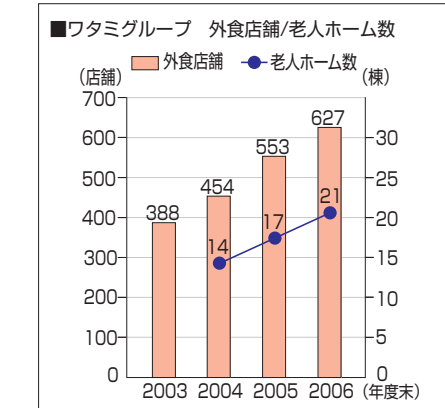
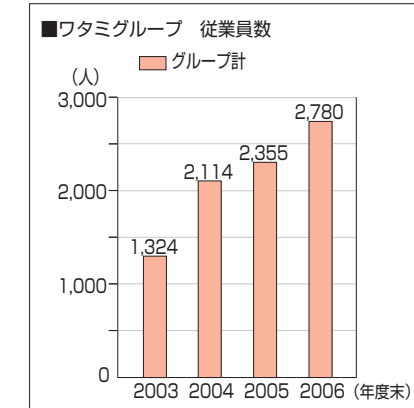
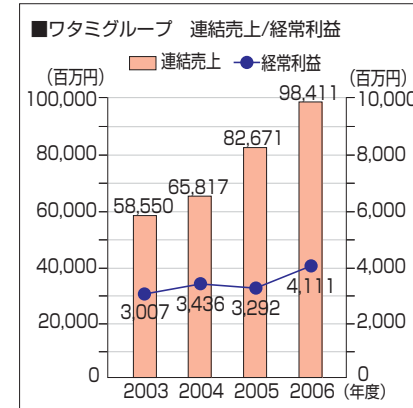


炭火焼だいにんぐ「わたみん家」
 「炭火焼串料理」と「おでん」「串焼」といった専門商品を提供する業態として展開しています。

Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's®」
 「古き良きアメリカ」をコンセプトに、ドリンク類を豊富に揃え、アメリカの家庭食をフレンドリーなサービスで提供するレストラン。

■海外の外食業態紹介
Japanese Casual Restaurant「和民」
 日本の「和民」の味を本格的に追求、手頃な価格で、お洒落で清潔な店内で礼儀正しく親切なサービスを気軽に楽しめる Japanese Casual Restaurantとして展開しています。

□香港：居食屋「和民Hong Kong」
 □深圳：居食屋「和民Shenzhen」
 □台湾：居食屋「和民Taiwan」



■介護事業

施設介護事業および訪問介護
 居宅介護支援事業

2006年度は神奈川県に介護付有料老人ホームを4棟開設しました。2006年度末時点で、「レストヴィラ」を、埼玉県に2ホーム・東京都に1ホーム・神奈川県に16ホーム展開、および神奈川県住宅供給公社の「トレクオーレ横須賀」の運営を受託。また、高齢者マンション(住宅型有料老人ホーム)の「レヴィータ岸和田」を運営しています。
 ●ホーム数：21棟

■展開ホームご紹介

レストヴィラ
 介護付有料老人ホームの「レストヴィラ」を展開しています。住み慣れた自宅・地域では自立した自分らしい暮らしを営むことが困難になった方のために、介護保険・在宅サービスの「特定施設入居者生活介護」を利用して必要なサポート、サービスを提供する、ワタミの介護付有料老人ホームの中心ブランド。ワタミ農園やワタミカフェ、美味しい食事や環境への取り組みなど、ワタミグループのノウハウが随所に活かされています。

REVITA

住宅型有料老人ホームとして展開する「レヴィータ」は、食事や生活支援の付いた高齢者マンションです。プライバシーを確保しつつ、万が一介護が必要な方には、「デイサービスセンター」や「訪問介護ステーション」が対応するなど、安心して自室に住み続けることができる体制を備えています。

■環境事業

環境改善事業・企業の店舗施工・メンテナンス業務を受託

外食店舗や介護・商業施設の環境施策と、内装・厨房工事からメンテナンスまでの施設管理業務を展開しています。
 □各種メンテナンス(店舗内装、厨房工事など) □リサイクル/廃棄物管理
 □省エネ設備導入(動力削減機導入、省エネ看板、節水施策など)
 □環境対策コンサルティング、ISO14001認証取得支援など

■教育事業

介護分野での教育事業の展開

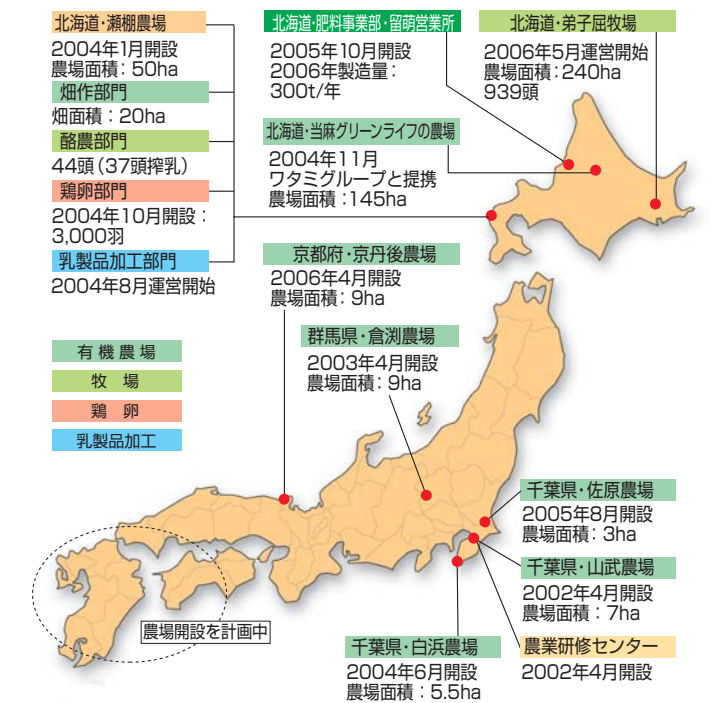
2006年、教育事業を本格化すべく教育事業部を新設、介護分野での一般社会人の職能教育および法人向けの研修からスタート。ケアマネジャー試験対策講座や医療と介護のシンポジウムを開催しました。

■農業

農産物、有機肥料、農業資材の生産・販売およびグループ企業への農産物の納入、酪農・養鶏・畜産事業

2006年度は北海道の弟子屈(てしかが)で肉牛の生産を開始し、畜産事業に参入しました。2007年3月末時点で全国に8ヶ所、488.5haの農場(牧場)を運営しています。また酪農や鶏卵事業・肥料事業等にも取り組んでいます。
 ●農場：国内8農場(面積：488.5ha)

■ワタミグループの農場 (2007年3月末現在)



■その他

医療：医療事務受託および物品販売業務
 中食：惣菜店の経営
 花卉販売業：グループ企業への花卉類の納入および一般小売

△お取引先様へ
 △株主様へ
 △お取引先様へ
 △従業員へ
 △地域・社会へ
 △環境へ

「ありがとう」を集め続ける グループを目指して



トップメッセージ

私は、「ワタミがあってよかった、ありがとう」と全てのステークホルダーに言っただけのグループを目指し、従業員に「100年先から見て、美しい仕事をしていますか?」と問いかけ、その思いを伝え続けています。

100年先から「今」を見ると物事の本質が大切になります。

100年先から見て問われることは“どのように生きたか?”であり、“どれだけ多くの人の幸せに関われたか?”であり、「WATAMI」のあり方や方向性が問われます。

- 企業として誠実であったか
- おもいやり深い会社であったか
- 社会のニーズに応えるために挑戦したか
- 新しい世界・革新された社会づくりに邁進していたか
- 独自のビジネスをもち、社会に提案する存在であったか
- たくさんのありがとうの中で成長していったか

企業とは「人」そのものであり、一人ひとりの行動の反映であると考えます。

この思いをグループ全社員で共有したいと思えます。

100年先から

- 日本で、世界で、こんなお店があってよかった、ありがとう
- 安全で安心な手づくりの料理を、ありがとう
- あの会社があったから日本は、高齢者にとって幸せな国となった、ありがとう
- あの会社があったから、日本の農業は守られた、ありがとう
- あの会社こそ、外食における廃棄物リサイクルの先駆けだった、ありがとう
- この会社の株主でいてよかった、ありがとう
- この会社と取引ができてよかった、ありがとう
- こんな会社で働けてよかった、ありがとう

この「ありがとうの総和」こそがCSRであり、会社の価値を決めると信じます。

これからも全社・全社員で一歩ずつ、一歩ずつ体の重い亀のように歩んで参ります。

皆様の変わらぬご支援を、心よりお願いいたします。

ワタミ株式会社
代表取締役社長・CEO

渡邊美樹

ワタミグループに共通する 経営の考え方

私たちは、企業は人そのものであり、一人ひとりの行動の反映であると考えます。

ワタミの目指す姿は、様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続ける「ビジョナリーカンパニー“WATAMI”」です。

ワタミがその事業に参入してくれてよかった・・・と言われるように、「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、“ありがとう”を集めます。

●ワタミグループ スローガン

「地球上で一番たくさんの
“ありがとう”を集めるグループになろう」

●ワタミグループ ミッション

「地球人類の人間性向上のための
よりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」

●ワタミグループ 経営の基本目的

1. 会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄
1. 新しき文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献

●グループ社員の仕事の仕方に対する合言葉

「from-O」
「明るくのびのびと仕事をしよう」

【グループ企業が目指すことを各社の経営目的に表現】

グループ各社の経営目的は、グループ共通の経営の基本目的に加え、各事業領域での目指すことを表現しています。

- ▼外食 一人でも多くのお客さまに、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること
- ▼介護 一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと
- ▼農業 食の基本である安全・安心を追求し、次世代に良い環境を残し、人々の幸せに貢献する
- ▼環境 さまざまな施設における環境改善を行う事により、現在進行している地球規模の環境問題の改善に寄与する
- ▼教育 人間性を高める「仕事」と「職場」づくりを支援し、人と企業との新たな出会いの場を創造する

●ワタミグループ憲章

ワタミグループは、

- 一、地球上で一番たくさんのありがとうを集めるために戦う
- 一、人間性の向上のため、夢を持ち、夢を追い、夢を叶える
- 一、人として美しい生き方を追求する
- 一、「人」が差別化となる事業にのみ参入する
- 一、お客様の満足をすべてに優先させる
- 一、公明正大な人事を行なう、完全実力主義こそ、人事の要諦とする
- 一、額に汗した利益を、利益と認める
- 一、ありがとうの分だけ売上を上げ、知恵の分だけ利益を出す
- 一、すべてのことにおいて、損得で判断をせず善悪で判断する
- 一、ワタミらしいことをすべて肯定し、ワタミらしくないことをすべて否定する

※ワタミグループ憲章はワタミグループの経営判断基準を明文化したものです。

●グループ社員としての行動基準

ワタミグループは日々の仕事の中で以下の基準を常に意識し、行動し、常にワタミらしくあるべし

1. 常に謙虚なれ、常に感謝せよ
1. 他人の喜びや悲しみを共有せよ
1. 約束を守る、嘘をつかない
1. 愚痴、陰口を言わない
1. 笑顔で元氣よく挨拶をする
1. 出来ないと言わない
1. 失敗を他人のせいにしな
1. 大いに発言し、果敢に実行する
1. 他人の意見を聞く
1. 恥ずかしいと思うことはしない

●グループ社員の仕事に対する心構え

ワタミグループは同じ目的のために同じ心を持つ同志の集合体であるべし

1. 感激できる感性を持つべし 感激は情熱の源であり、情熱は成功への出発点である
1. 逆境に悲観せず、順境に楽観せず、常にハングリー精神を持ち 挑戦し続けるべし
1. 勝つまで戦え、限界からあと一歩進め 結果がすべてである
1. 問題意識を持つべし 問題の発見と解決が次のビジネスチャンスを生む
1. 継続こそ力なり 日々の努力は継続されることにより信用を生み、信用は力を生む

ワタミのCSRの考え方

ワタミのCSR

ワタミは、創業当時より、人としての人間性、企業としての企業性を重視し、あらゆるステークホルダーの皆様の満足を追求してきました。言葉は違えどもCSRを追求することとまったく重なります。

既存の慣習に捉われることなく、経済的・社会的・環境的ニーズの充足に挑戦し、革新された社会づくりに邁進しています。

今後も、グループスローガンに代表されるワタミの理念に基づき、よりよい社会、新しい社会のあり方を開発・提案・実践することで「CSR活動(地球上で一番たくさんのありがとうを集める活動=ワタミのふれあい活動)」を進めていきます。

地球環境を破壊することなく、安全・安心な社会のため、人として、企業としての使命(責任)を果たす持続可能な経営へ挑戦し続けます。
※現在に至るまでのCSRに関連する諸活動を「CSR年表」として掲載しています。(→詳しくはP58)

CSRの領域

ワタミは、一人ひとりがワタミグループのミッション・スローガンを共有し、新たな価値の創出、持続可能な社会の実現に向け、理念に基づき自発的な活動目標を設定し、その内容を深めることを必須と考えています。

一貫したCSR活動を維持・継続するため、ステークホルダーの皆様を、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」「地域・社会」「環境」に分け、そのさらなる追求に努めています。

- お客さまへの責任
安全・安心で、付加価値の高い商品を提供
- 株主様への責任
安定的な経営と適切な情報開示
- お取引業者様への責任
公正で公平な取引、相互に補完・繁栄できる関係の構築
- 従業員への責任
安全で適切な労働環境の構築、公正な評価
- 地域・社会への責任
積極的な地域との交流と社会貢献
- 環境への責任
ワタミグループ全体で環境負荷を低減

ブランドテーマ

ワタミグループでは、環境、社会、そして人に対して、よりやさしい存在になることを目指し「環境貢献・社会貢献・人間貢献」をブランドテーマとしても掲げ、取り組んでいます。

私たちの存在そして行動は、どの領域においても「社会に対してプラスとなる」という宣言です。

会社の存在そのものから、事業の選び方も、仕事の仕方も、人に良い影響を与える存在であり続け、テーマとして掲げたことを、常に忘れずに、少しずつでも、やり続けるというグループ全体の意思表示です。

社会的責任を果たしていくために

ワタミが、社会的責任を果たすため、「すべてのステークホルダーの皆様からのありがとう(感謝)」をいただくために、皆様との対話を積極的に行い、私たちの活動に対する“声”を集めています。

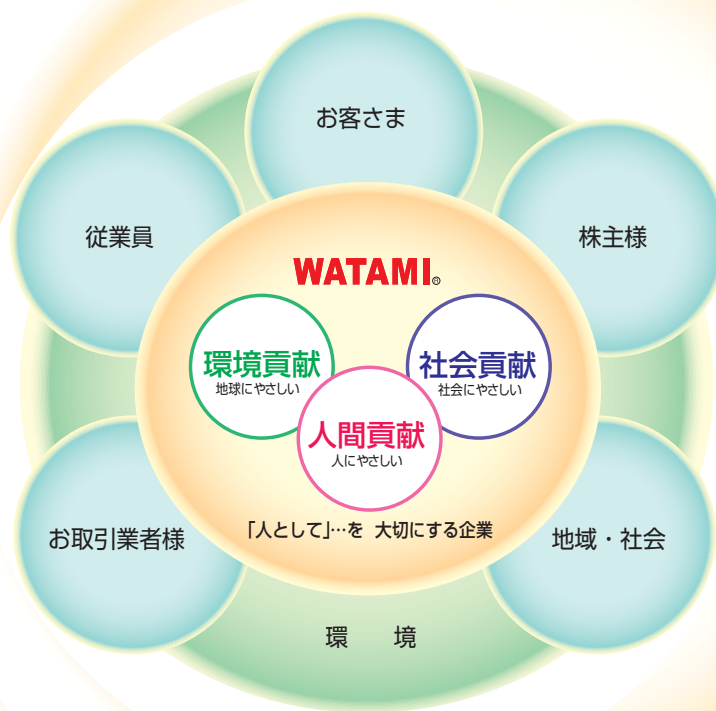
皆様から寄せられたご提案・ご意見・クレームは、すぐに検討(対応)するとともに、課題解決への計画を策定、それぞれのマニュアルへの反映、業務計画への組み込みを行っています。

計画の実施、結果の評価、継続的な改善、確実なる目標達成に向けて、PDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルを稼働させ、活動に取り組んでいます。

PDCAサイクル

ワタミグループでは、CSRへの取り組み状況を定量的・継続的に把握するためにPDCAサイクルを稼働させ、活動に取り組んでいます。財務面における指標だけでなく、各ステークホルダーの満足を目的として目標値を設定しています。目標値(活動や指標)については、各ステークホルダーの扉ページに記載しています。

補足資料：CSR指標・WEB掲載



あらゆる場面の“ありがとう”をとりにいきます。

外食事業



居食屋「和民」

一人でも多くのお客さまに、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること

おいしいものがあって、良いサービスがあって、良い雰囲気がある場所に、好きな人と一緒にいる……。こんな場を提供したい、外食産業は人を幸せにする産業だと考え、「お店はお客さまのためだけにある」を店舗基本理念として、外食事業の展開が始まりました。

介護事業



有料老人ホーム「レストヴィラ座間谷戸山公園」

一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと

日本の高齢化は急速に進んでおり、2014年には総人口の25%が65歳以上という超高齢社会となります。「高齢者の方からも、たくさんのありがとうを集めること」を目的に、介護事業に参入しました。

農業



ワタミファーム「白浜農場」

食の基本である安全・安心を追求し、次世代に良い環境を残し、人々の幸せに貢献する

長年、農業や化学肥料により農地は疲労し環境にも大きな問題を起こしています。加えて農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増大などで日本の食糧自給率は40%を切る状態です。ワタミグループは自ら有機農産物の生産、そして販売を行い、国内農業が抱える根本的な問題を解決するために、農業生産法人と農産物の販売法人を設立しました。

環境事業



ワタミエコロジー「メンテナンス作業」

さまざまな施設における環境改善を行う事により、現在進行している地球規模の環境問題の改善に寄与する

現在私たちは様々な環境問題に直面しており、このまま放置しておくと、地球は生物の住めない場所になってしまいます。この問題に取り組み、改善していく活動が急務であると考えます。温暖化をはじめとする地球の危機的状況を乗り越える活動を拡大し、実行することが私たちの社会的責務であり、かつ存在意義です。

教育事業



医療・介護セミナー

人間性を高める「仕事」と「職場」づくりを支援し、人と企業との新たな出会いの場を創造する

2006年、教育事業を本格化すべく教育事業部を新設、介護分野での一般社会人の職能教育および法人向けの研修からスタート。ケアマネジャー試験対策講座や医療と介護のシンポジウムやセミナーを開催。

グループを超えて力を結集 “ありがとう”をとりにいきます。

社会貢献



カンボジアの学校

NPO「スクール・エイド・ジャパン」を支援



ワタミの森づくり

NPO「Return to Forest Life」を支援

より多くの人々の幸せへのきっかけの提供
「開発途上国の子どもたちに教育環境と教育機会の提供」や「環境改善の取り組みとして森づくりをすること」などをNPO法人を通じて継続的に支援しています。全社員の社会的責任行動やボランティア活動への参加を促進しています。

▼お客さまととも
 ▼株主様ととも
 ▼お取引業者様ととも
 ▼従業員ととも
 ▼地域・社会ととも
 ▼環境ととも

コーポレートガバナンスの強化

CSRの基盤として、グループのガバナンスに力を入れています。

意思決定の迅速化とグループ価値最大化を目指して

ワタミでは、経営管理機能を強化し、スピーディな意思決定を図りつつ、各事業の経営資源やインフラのシナジー効果を高め、グループ価値最大化と事業ポートフォリオの最適化を目指しています。

2006年4月1日、経営管理と業務執行を分離した持株会社体制に移行、グループ各社が、全体の「統一性」を維持しつつ、ステークホルダーの皆様のニーズに応じて「独自性」を発揮できるように権限と責任を持ちました。

さらに、グループガバナンスの強化のため、内部統制システムの整備を進めるとともに、グループCSR活動を推進しています。

内部統制システム整備への取り組み

2006年5月に施行された「会社法」を踏まえ、「業務の有効性・効率性の確保」「財務報告の信頼性の確保」「法令等の順守」「資産の保全」といった目的を達成するために、グループ内の体制・業務を見直し、経営者自らが事業全体を監視する仕組みを組み込み、適正な事業活動を継続して行う基盤の整備を進めています。

ワタミグループでは、2006年5月には「取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制」などの内部統制システム構築に関する基本方針を取締役会で決議しました。

2007年度からは業務の適正を確保するための体制づくりに取り組んでいます。

取締役のグループ公選制の採用

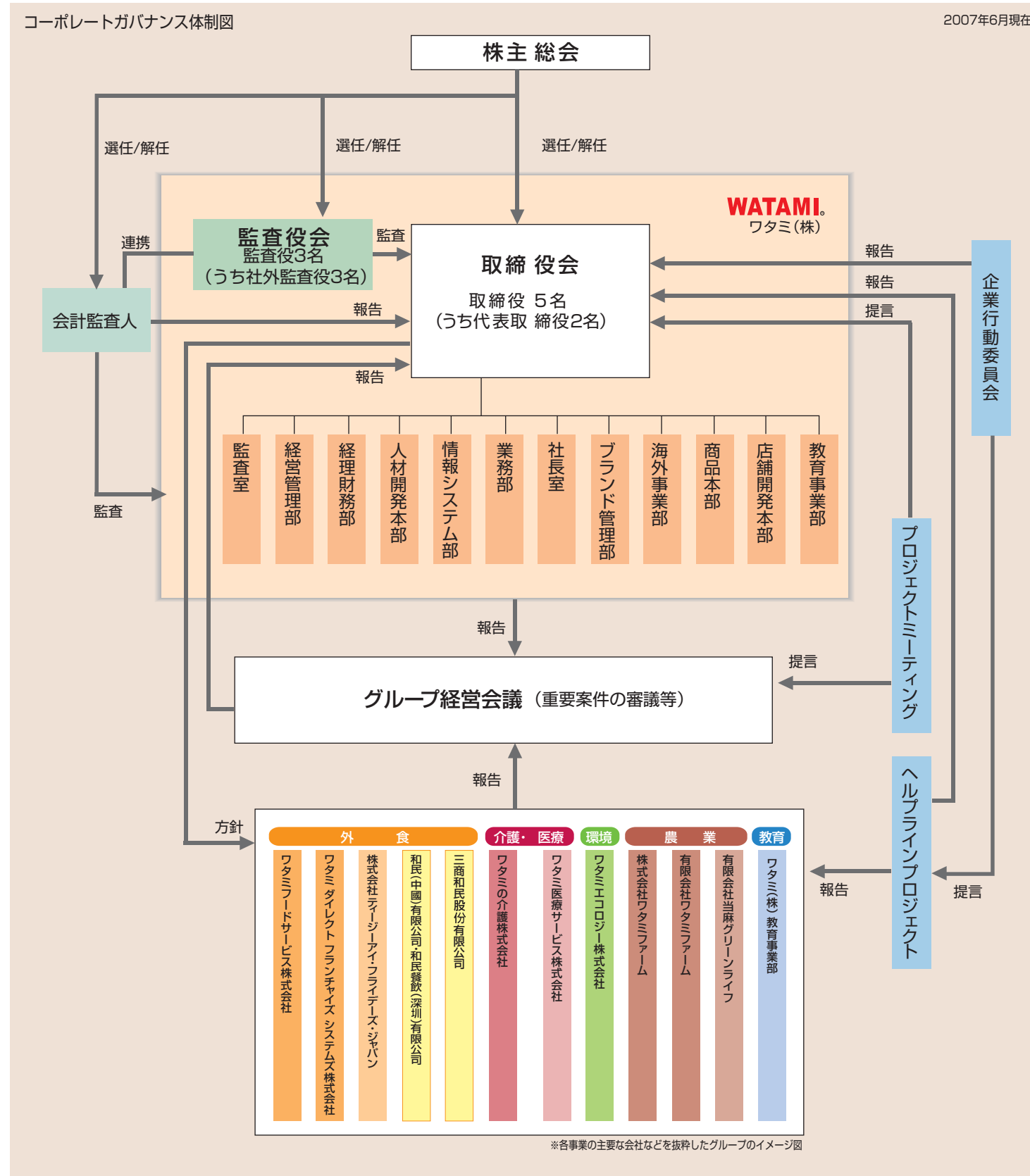
ワタミでは、2002年には、不測の事態に迅速に対処すること、さらに権限の一極集中を回避するため、代表取締役を2名体制に変更し、円滑な経営を図る体制を構築しました。

加えて「執行役員制度」を導入し、取締役会の監査機能と執行役員業務執行を分離しました。

2006年度からは取締役の任期を、2年から1年に変更することで、経営に対する責任を明確にしました。

また、2002年から段階的に減らしてきた取締役数を、2006年度は5名とすることでさらなる迅速体制を整えました。

役員の選任は、2006年4月より「グループ公選制」を採用しました。取締役候補者の選任には、より透明性の高い、公正な選任プロセスを構築しています。ワタミ(株)取締役、執行役員、各グループ会社社長、役付取締役による投票を行い、その結果をワタミ(株)の取締役会にて承認し、株主総会に諮ることになります。



グループ経営会議と役員会 (グループ全体の最適化と監督の仕組み)

毎月2回、ワタミ(株)の社長、取締役、各部門を統括する責任者、グループ各社の社長が参加する「グループ経営会議」を開催しています。この会議は、経営資源の管理・適正配分や、グループ全体の事業効率を高めること、潜在するリスクに対応し、事業活動の安定性・信頼性を確保することを目的としています。

会議では、グループ内の情報共有化とともに重要案件についての審議が行われ迅速な意思決定がなされています。

また、新規事業への参入などの重要課題に対しては、各社の事業推進・最適化に留まらず、グループとしての強みを活かした連携・展開を実現するための活発な議論がなされています。

このような経営会議を開催することで、取締役会での審議がより精度の高いものになっています。

さらに毎月一回、グループ各社の「役員会」にて、前月の営業概況や次月の計画、課題などの報告・討議が行われています。

この会議においては、ワタミ(株)の取締役および各部門責任者が参加することにより、各社運営の監督・支援を行っております。

CSR活動の推進体制構築

ワタミグループでは、グループ各社・各部署でそれぞれ設定したCSR指標を達成するために、計画を立案し、その活動を推進しています。

目標として定めたCSR指標の進捗管理は、毎月開催されるグループ経営会議にて報告されます。グループ各社・各部署が各々のCSR指標を追求することでグループ全体でのCSR活動が推進されています。

プロジェクトミーティング (社外ブレンを含む専門組織を設置)

ワタミ(株)の副社長をトップとしてグループの管理部門に顧問を加えたメンバーで月2回、グループ全体の方向性や事業展開、内部統制や経営機構の改革を進める「プロジェクトミーティング」を設けています。

緊急性の高い課題に加えて、グループ価値最大化という観点で中長期的なステークホルダーへの対応について重点的に審議し、取締役会・グループ経営会議に提言するなど、具体的な社内プロジェクトを推進する上でのブランド維持、マーケティングの連携や危機管理などに活かされています。

■2006年度 プロジェクトミーティング 主な議題例

フードサービス事業の強化	<input type="checkbox"/> 適正な業態ポートフォリオの検討
内部統制システム構築	<input type="checkbox"/> 組織・職務分掌・内部牽制の評価 <input type="checkbox"/> 各リスク案件の評価
グループ事業の支援	<input type="checkbox"/> 新規事業の評価

△お取引業者様へ
△株主様へ
△従業員へ
△地域・社会へ
△環境へ

コンプライアンス活動の推進

企業倫理とコンプライアンスの徹底

ワタミグループでは、企業としての社会的責任を果たしていくうえで「理念の浸透」に加え、「企業倫理の確保」と「遵法精神の醸成」を最も重要な活動の一つに位置づけて、社内への浸透に徹底的に取り組んでいます。

役員・社員の一人ひとりが法令の順守にとどまらず、高い倫理観・使命感を持って実践に取り組めるよう、「理念集」を全社員に配布し、事業責任者が主催する教育・啓発活動を毎月実施しています。

(→詳しくはP36)

また、執行部門から独立した監査室を置き、内部監査規程に基づき定期監査および臨時監査を行っています。

2006年度は、グループ全社員が定期的(3ヶ月)に参加する理念研修会(→詳しくはP36)にてコンプライアンスをテーマとして、研修を実施しました。

研修では、ふれあい報告書2006(CSR報告書)をテキストとして、想定されるコンプライアンス違反についての講義や質疑応答、ディスカッションを行いました。また新卒社員・中途社員の入社時研修においても同様にコンプライアンス意識を醸成する講義を実施しています。

企業行動委員会

グループ内に存在する諸問題について、自己改善・自浄できる組織になることを目指し、副社長・取締役・執行役員・監査役・外部顧問により構成される独立した専門機関として「企業行動委員会」を2003年より設置しています。

2006年度においては、「ワタミヘルプライン」へ提言する一方で、各種のリスクにおいては、その検討を別途設置されている「プロジェクトミーティング」と協調し行い、その実効性を高めています。

2007年度においては、「企業行動委員会」の機能・役割をさらに整理し、実効性を高めていきます。

適正飲酒の推進

適正飲酒の啓発活動は、社会的影響の大きい重要なテーマであると考えています。中でも、「未成年飲酒防止」については重点課題と位置づけ、社員教育・店内ポスター掲示などの社内体制の整備に加えて、未成年者と見えるお客さまには年齢確認をさせていただいています。

具体的な内容としては、全従業員に対して入社時研修およびロールプレイング研修や、全店舗にマニュアルを配布し徹底を図っています。

特に、未成年の飲酒が増加しやすい時期(3月・7月・12月)には全店舗を対象に指導を強化し、業務改革会議を通じて一層の徹底を促しています。

また2006年10月には駐車場設置店舗で、店内に運転代行業者様の連絡先を掲示し、さらに12月、WFSでは関東地方の「和民」「坐・和民」35店舗にて「STOP! 飲酒運転」と印刷されたコースターを使用して、お客さまへ飲酒運転防止を呼びかけました。



店内掲示ポスター



「STOP! 飲酒運転」コースター

ワタミヘルプライン

2003年に、グループ内に存在する問題を広く受け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口(ワタミヘルプライン)を、グループ従業員(パート・アルバイトを含む)およびお取引業者様に向け開設しました。

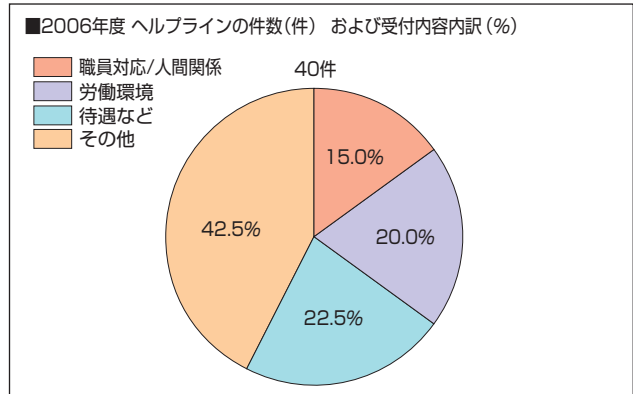
このヘルプラインは、2006年4月から施行された「公益通報者保護法」にも準拠し、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直接連絡する窓口と外部委託機関である(株)インテグレックスを経由して連絡する窓口の2つを設けています。

社内外の2つの窓口を持つことで、企業活動に伴うリスクの早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。

ヘルプライン受付アドレス ※Eメールアドレスへは携帯電話からのメールでも可能です。

▲ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

■(株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp
 インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>



補足資料: ワタミヘルプライン概要…WEB掲載

未成年飲酒についてのご報告

2006年度WFSの東京都内の直営店舗にて、従業員の過失により1件の未成年飲酒が発生し、該当の1店舗が「未成年者飲酒禁止法」違反のため、20日間の営業停止の行政処分を受けました。

当社には、未成年者の飲酒を防止するために2つの社内規定があります。

1. 店舗入口にてお客さまをご案内するのは、教育プログラムを習得し認定を受けた従業員とする
2. 入店されるお客さまの、容姿が22歳以下に見える場合、年齢が確認できる写真付きの証明証の提示を求め、未成年のお客さまへはアルコールを提供しない

しかし、当日の状況の中で、未認定の従業員が入店対応をしたため、年齢の確認漏れを発生させてしまいました。当社は今回の事件を真摯に受け止め、以下の再発防止策を講じました。

- 全店舗において、2つの社内規定を再度通達するとともに、再教育を実施
- 全従業員(社員、アルバイト)に対して、今回の事件とともに、「年齢確認」の規定を通達

今後の事業活動において、二度とこのようなことがないように、社員一人ひとりがコンプライアンスを重要視するグループづくりを推進していきます。

リスクの発生予防とリスク発生時の体制づくり

リスク発生時の対応体制を整備しました

ワタミグループではリスクを、(1)経営リスク、(2)政治・経済・社会リスク、(3)災害・事故などに分類し、それぞれのリスクの影響度・発生頻度を考慮し管理しています。

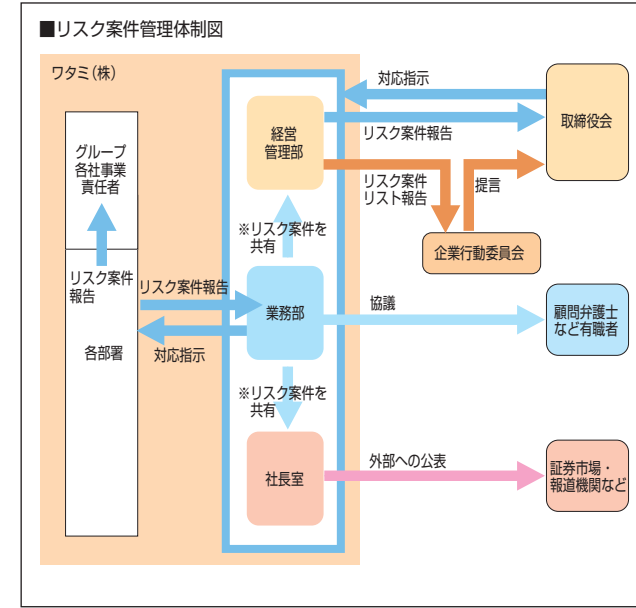
外食事業では、BSEや鳥インフルエンザなどの伝染病の蔓延による仕入価格の高騰や、集中仕込みセンターの稼働不能による供給体制の支障、労働法改正といったリスクがあります。また、グループ事業の拡大に伴い、農業での天候不順や介護事業での保険制度の法改正など、新たなリスクが発生しています。

2006年度は、これらのグループ全体としての重要リスク案件を把握・管理するために、法令違反や事故情報など重要リスク案件の管理体制の整備を行いました。

リスク案件がグループ各社にて発生した際は、各社の事業責任者に報告がなされたうえで、ワタミ(株)内の業務部が窓口となり、関係各部署に連絡、対応依頼を行うとともに、必要に応じて保険代理店、顧問弁護士などと協議の上で対応します。

また発生したリスク案件は、経営管理部・人事部・社長室(広報)で全件共有されており、経営管理部により各リスク案件のリストを作成・管理の上で取締役会に報告されます。

補足資料: 想定される主なリスク…WEB掲載



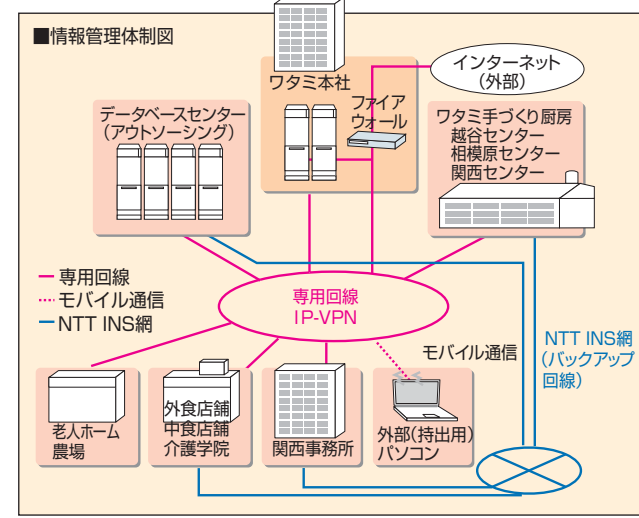
情報セキュリティの強化

事業活動を遂行するうえで不可欠な情報の保護・管理は、企業として当然の責任と認識し、その整備に積極的に取り組んでいます。

各施設(店舗・老人ホームなど)は専用の通信ネットワークを整備することでアクセスを制御、外部への接続は、本社ファイアウォールを経由することでセキュリティを強化。天災や災害に備えデータベースセンターを地盤の強い立地に選定する他、通信ネットワークのトラブル発生時には、自動的にバックアップ回線に切り替わるシステムを導入、データ送信に支障の出ない体制を構築しています。

2006年はグループ事業の拡大に伴い、情報セキュリティの範囲を拡大、不正ソフトウェアの抽出・検出などの機能を持つシステムを導入し、社員のパソコン管理の強化を開始しています。

また、農業でも各農場へ専用の通信ネットワークを整備、セキュリティを強化しました。介護事業では、新たに専用のシステムを開発することで、業務負担を軽減するとともに、セキュリティレベルを強化しました。



個人情報の安全管理体制

外食店舗では、全店に「個人情報保護方針」の掲示はもちろん、個人情報に関するお問い合わせに対する専用窓口を「お客様の個人情報のお取扱いについて」にてご案内しています。また、お客さまの名簿や従業員の個人情報の個人情報は、施錠可能な場所に保管するルールが徹底されていることを、年2回確認しています。

ワタミふれあいホームページでは「お客さまの個人情報に関するプライバシーポリシー」を公開し、法令および当社が定めた内部規則を順守することを宣言しています。さらに、外食店舗の評価を送信するアンケートフォームにおいては、送信される情報はSSLにより暗号化しています。なお、2006年度に個人情報保護法に違反する事案はありませんでした。

外食店舗に掲示されている個人情報保護方針

フタミ株式会社個人情報保護方針

お客様のご個人情報の取扱いについて

1. お客様の情報を頂く際には、使用目的を明示し、その目的以外では使用いたしません。
2. 個人情報について安全管理を心掛け、従業員への監督・教育に努めます。
3. ご本人の同意なしに第三者に情報を提供いたしません。
4. 六ヶ月以上保管する情報はご本人からの求めによりその内容を明らかにし、ご要望があれば利用を停止いたします。
5. ご意見、ご要望等ございましたら、所定の用紙(※)にご記入の上ご郵便にて下記のお問合せ先までご郵送下さい。

お問合せ先: フタミ株式会社 業務部
 住所: 東京都大田区羽田1-1-3
 TEL: 03-3737-9790